

ニッポン

ドクター和の



臨終凶巻

「あっけない。こんな別れがあるのか」…。連れ添って40年の妻に突然死なれたときの夫の言葉です。

プロ野球ヤクルト、楽天などで監督を務めた野村克也氏の妻であり、タレントとしても活躍された野村沙知代さんが12月8日に急逝されました。85歳でした。

死因は虚血性心不全。先日、この連載で書きましたが、ちょうど1年前に亡くなられた芸能リポーターの武藤まき子さん(享年71)と同じ死因で、同じ突然死でした。心臓突然死は突然死の中で最も多い疾患であるといわれています。

沙知代さんは亡くな

35 野村沙知代



長尾和宏(ながお・かずひろ) 医学博士。東京医科大学第二内科入局。1995年、兵庫県尼崎市で在宅医療から在宅診療まで「人を診る」総合診療を目指す。近著「痛くない死に方」は、関西国際大学客員教授。

「手を握って」と沙知代さんが訴えたとき、きつと本人の中では何かしらの別れの予感があったのだと思います。

私の在宅での年間お看取り数は12月で100人を大きく越えました。最期に何かメッセージを残して逝く人は決して珍しくありません。それを受け止めて、手を握ってあげた克也さん。最期の瞬間、伴侶と一緒にいてあげられたことが何よりも良かった。もしも、一人でいるときであれば異状死や孤独死として警察沙汰になっていた可能性も高いのです。

異変があったのは、8日のお昼ごろ。先にベッドから起きたのは克也さん。また隣のベッドで横になっていた沙知代さんは、克也さんにこんなふうに声をかけました。

「最期は本当にしゃべれなかった。『どうしたんだ?』と(こちらが聞いた)だけ…」
克也さんは記者会見で言葉を詰まらせた。昨日まで一緒にホテルで食事を楽しんでしっ

それにしても、克也さんの憔悴ぶりが気になります。突然妻に先立たれると急に弱ってしまふのが夫という生き物です。そのあたりのことを私は拙著『男の孤独死』(ブクマン社)詳しく書いたばかりです。孤独に負けず、元気でいらっしゃることを祈ります。それが奥さまへの最大の供養になると思います。

「左手を出して。手を握って」

「手を握って」に別れの予感

「手を握って」に別れの予感

沙知代さんは亡くな